

## 平成26年度 名古屋市立工芸高等学校 学校評価(自己評価)報告について

### 平成26年度努力目標に対する評価

		評価と課題等
生徒指導	基本的生活習慣の育成・授業規律の確立	<p>登校時の校門指導において挨拶を心掛けた。</p> <p>服装や遅刻に対しては生徒には声かけや注意など改善を促した。遅刻に関しては、回数による段階的指導を実施しており減少傾向にある。</p> <p>授業規律においては、学校全体での共通理解の下、全教職員で取り組み、どの学年も落ち着いた環境で授業を進めている。今後は、新しい授業の形を模索しながら授業改善を進める中でさらなる授業規律を確立していく。</p>
	問題行動への速やかな対応	<p>問題行動に対しては発覚後速やかに対処、指導を行った。</p> <p>特に、SNSへの書き込みの対応も事例を紹介し、適切な指導を実施した。</p> <p>今後も、SNSをはじめネットによるトラブルが多く発生する中、外部の指導者の協力も得ながら生徒への指導を徹底していく。</p>
	学校美化の向上	<p>新設された美化委員会・保健委員会による週2日、ごみの分別回収を実施などの美化・保健活動を推進し、生徒や教員に対して校内を清潔に保つ意識の高揚を呼びかけた。</p> <p>美化・保健活動が充実したものとなるように、委員会の活動を活発なものとし、全校生徒に分かりやすい活動を推進していく。</p>
	自主活動の充実	<p>部活動の充実とともに、活躍を全校で共有するために「工芸 News」やホームページで紹介した。</p> <p>様々な地域貢献を充実した。今後も大学・企業・地域との連携を充実させていく。</p> <p>人権教育の全校的取組を充実し、全教員・全校生徒で「人権意識」の共有を推進した。</p> <p>今後も、自主的・自律的な活動を通じて、集団生活の向上を図る。</p>
	カウンセリングの充実	<p>スクールカウンセラーと連携し、専門知識の共有と生徒に対してスクールカウンセラーへの相談を推進した。今後はさらにカウンセリング機能を充実させていく。また、教員とカウンセラーとの連携を蜜にしていく。</p>

	防災教育の充実	防災・エネルギー・言語活動の指導の内容・方法を研究するため、予算を獲得して備品を購入した。特に「環境工学基礎」の指導の内容・方法を学科間で共有する必要がある。地域の小学校に「かまどベンチ」を製作するなど、地域の防災活動に貢献した。また、高校生防災セミナーに参加し、その成果を学校全体に還元した。来年度は地域を巻き込んだ学校を基点とした防災活動を実施予定である。
学習指導	学習習慣の育成	成績不振の生徒に対する指導については、学期末だけでなく、継続的な指導支援の必要性を呼びかけた。様々な対策を講じた結果、単位不認定の生徒は増加しなかった。他方、成果が現れなかった生徒もいるので、その原因を引き続き検証する必要がある。
	授業の改善	授業研究については、活性化を図るため、希望者による公開授業の他、各科1名の研究授業を設定した。参観数の増加には至らず、公開数も減少した。新学習指導要領での指導・評価の研究と併せての取り組みが望まれる。
	指導と評価の一体	指導と評価の一体化を踏まえた評価の観点の研究を呼びかけた。「公開授業」を通じて、本校全体での指導・評価の観点の研究への取り組みとともに、実践事例の蓄積が求められる。
	図書館の充実と利用促進	生徒が読書を通じてさらに成長できるよう、図書館を中心とし読書促進を行った。魅力ある図書館とするよう、選書には書店見学会を利用し、また各科の教員に依頼し、本校の生徒の特色・興味に即した蔵書の充実を図った。また、おすすめ本コーナーや、参加型の展示を行い、図書館の利用促進を図書委員中心で行った。館内ではインターネットも利用でき生徒の調べ学習の環境が整った。来館者は昨年と比べ増えた。
進路指導	3年間を見通したキャリア教育	総合的学習の時間（1年次「自己と社会」・2年次「就業体験」）を充実させ、3年間を通じたキャリア教育を推進した。特に、「就業体験」は160社の協力を得ながら、生徒に望ましい就業観・職業観の育成を図ることができた。今後は、企業や市民のニーズをしっかりと把握しながら「生きる力」をはぐくむキャリア教育を推進していく。
	進路指導の充実	進学希望者への英語科目や指定校推薦の対応について、教員全体で議論した。進学対応についての各科の認識を共有することができた。卒業後の進路のあり方と併せて、議論を深める必要がある。また、第2学年に対して、新課程での類系選択説明会を実施した。就職に関して自己理解、職業適性など、将来の進路への自己実現を目指し、進路の不適応をなくし、やりがいがあり、長続きできる仕事を見つけられるように進路指導をした

## 各校務分掌の報告

分 掌	重点目標	具体的方策	評価・課題（改善点）
総 務	①分掌間の業務調整と円滑化、各種委員会の活性化を図る ②現職教育の充実 ③学校全体の環境整備（施設・設備）の推進を図る ④PTA 活動の活性化を図る ⑤情報管理（IT 係）の充実	①事務効率化に向け関係部署、専門委員会との連携の強化 ②プロジェクト 100 委員会での検討の結果を、関係部署に反映するよう調整 ③設備の新規導入や更新の推進を図るとともに、修繕業務の充実 ④PTA 活性化のために、諸活動を通し 様々な取組みのサポートを推進 ⑤校内ネットワーク設備の充実、ホームページの管理・更新の調整	①防災訓練の早期実施（4 月）、学校安全計画の作成 人権週間に人権教育の全校的取組の実施 グラントデザインの検討・作成 ②年 3 回の現職教育の実施、6/24、10/16、11/29 ③特別支援に係わる環境整備 ④PTA 活動の充実 ⑤校内ネットワーク(生徒用)の整備、校務用パソコンの完全配備、PC の OS 対応、ホームページの充実（緊急時のお知らせ、スマホ対応）
教 務	①授業を大切にしている意識、主体的な学習姿勢の確立のために指導支援を充実させる。 ②「生徒を引きつける授業」・「生徒に考えさせる授業」・「生徒に自己実現させる授業」のための具体的な方法や教材開発への環境づくりと、新しい教育課程の研究や各教科・学科に対する支援を進める。 ③要学習支援生徒の指導の充実を図る。	①「類系選択」については、進学希望者への英語科目や指定校推薦の対応について、教員全体で議論した。 「新課程完成年度の時間割編成」については、HR・総合の曜日・時限を見直した。 ②「新教育課程科目の研究」については、防災・エネルギー・言語活動の指導の内容・方法を研究するため、予算を獲得して備品を購入した。 ③「要学習支援生徒の指導」については、保護者への早期の告知を図るため、保護者宛文書の送付、保護者への連絡・校長面談の実施に引き続き取り組んだ。 「学力補充指導」については、学期末だけでなく、継続的な指導支援の必要性を呼びかけた。	①「類系選択」については、進学対応についての各教科の認識を共有することができた。卒業後の進路のあり方と併せて、議論を深める必要がある。また、第 2 学年に対して、新課程での類系選択説明会を実施した。 ②「新教育課程科目の研究」については、特に「環境工学基礎」の指導の内容・方法を学科間で共有する必要がある。 ③「要学習支援生徒の指導」については、保護者への早期の告知の取り組みが定着しつつある。 「学力補充指導」を含め、様々な対策を講じた結果、単位不認定の生徒は増加しなかった。他方、成果が現れなかった生徒もいるので、その原因を引き続き検証する必要がある。

<p><b>生徒指導</b></p>	<p>①挨拶をする、遅刻・欠席をしない等の基本的な生活習慣を身に付ける指導に努める。 ②問題行動の早期発見・早期指導に努める。 ③交通安全の徹底に努める。</p>	<p>①登校時の校門指導において挨拶を心掛けている。また、遅刻間際に登校してくる生徒には声かけや注意など改善を促した。遅刻に関しては、回数による段階的指導を実施しており減少傾向にある。 ②昨年度の問題行動に対しては発覚後速やかに対処、指導を行った。SNS への書き込みの対応も事例を紹介し、適切な指導を実施した。 ③自転車通学者に対し、登下校時の声かけや壁掛け看板の設置、教室内掲示物を用いた啓発活動を行った。</p>	<p>①遅刻・欠席に関しては年々減少しており、今後ともこの傾向が続いて行くように指導を継続していきたい。 ②問題行動についても年々発生件数は減ってはいるが、SNS への安易な書き込みにより思わぬトラブル等が発生する恐れもある。今後とも講話などを通じて啓発に努めていきたい。 ③依然、自転車運転のマナー（傘さし、イヤホン装着など）については改善されたとは言い難い。今後とも引き続き講習会や校門での指導、ポスター等を用いてルールやマナーについての周知を図りたい。</p>
<p><b>進路</b></p>	<p>①生徒の適性・能力等を理解し、適切な進路選択の指導をする。 ②総合的学習の時間（自己と社会・就業体験）など、3年間を通じたキャリア教育を推進 ③希望する職種へ就職ができるよう、適切な指導を行う。 ④大学・専門学校等の状況を理解させ、進学を目的を明確にする。学校選択から応募、受験までの適切な指導を行う。 ⑤公務員試験の分析・対策講座を開講し、適切な指導を行う。</p>	<p>①担任・学科・進路での連携をしっかりと取り、生徒に適切な進路選択指導をした。 ②総合的な時間が、各学年の授業・行事にとどまらず、3年間を通じたキャリア教育という繋がりのある授業として確立した。 ③就職に関して自己理解、職業適性など、将来の進路への自己実現を目指し、進路の不適応をなくし、やりがいがあり、長続きできる仕事を見つけれられるようにした。就労支援アドバイザーの活用については、進路選択の悩みなど、生徒・保護者・教員の個別相談・講習会・面接指導などを行い、解決策を探った。 ④進学目的をはっきりさせるため、進学ガイダンス、学校説明会、オープンキャンパスなどに積極的に参加させ、適切な学校選択を行う。また、進路を見据えた類系コースの選択を考えさせた。</p>	<p>①2年3月の進路希望調査実施により、進路選択への関心が深まり、相談者や進路室利用者が増加している。会議室との併用は厳しい面がある。 ②各学年でのカリキュラムは充実し効率よく成果を上げている。卒業後にも役立つ社会人としての資質を身に付けられるよう勧めていきたい。 ③求人状況が良好で就職希望者が増加している。求人数が多い分、安易な選択からの不適切な就職をないように相互の話し合いをしっかりと行う。就労支援アドバイザーは有効に活用できてきている。来校日程などの制約が減ると望ましい。 ④学校説明会など、同系統の学校を比較検討し将来の希望を見据えた選択できている。学費面で奨学金、特待生制度などのアドバイザーも重要と考える。</p>

		⑤3年生向けに1学期間、週1日2時間の講習会の実施。1・2年生からの取り組みにも力を入れ継続的な学力補充を行った。	⑤公務員の受講者が多く合格者も出ているが、希望者も多く難関となっている。
生徒会	<p>①生徒会執行部と各委員会の連携強化と委員会活動の活性化。</p> <p>②部活動の環境整備と積極的な支援、活動報告の充実。</p> <p>③生徒主体の学校行事と生徒会活動の充実。</p>	<p>①執行部と各委員会が密に連携がとれるように、執行部をそれぞれの委員会担当とした。生徒会室を有効活用できるように環境を整備し、執行部会だけでなく各常任委員会も活発に開く。生徒会室にネットワーク回線が整備され、インターネット等を有効利用できるようにした。</p> <p>②生徒会誌では運動部の試合結果だけでなく、文化部の活動実績も掲載し各部の活動を幅広く知ってもらった。</p> <p>③文化委員・体育委員により部調査を実施することができた。実施回数や調査方法など、より正確性をもとめられる仕事となったが、責任を持って取り組むことができた。また生活委員によるゴミ分別の取り組みでは、生徒が計画・実施・反省までを主体的に行うことができた。</p>	<p>工芸祭では、執行部が各委員会に参加することで文化祭や体育祭など行事全体に関わることができた。</p> <p>部活動では文化委員・体育委員による部活動調査の実施や、部室の清掃や体育館、グラウンドの整備など環境面のサポートができた。また美化委員会や保健委員会と協力して、校内美化やボランティア活動にも取り組んでいきたい。</p> <p>今後も各委員会と情報を共有し、生徒主体で行事の企画運営をサポートしていきたい。</p>
保健	<p>①健康的な生活習慣を身につけるよう指導・助言する。</p> <p>②自己の心身の健康状態を把握し、健康で明るい学校生活をおくることができるよう指導・助言する。</p> <p>③身近な相談場所となるように、カウンセリングの体制を整備・充実させる。</p>	<p>①1年生については保健調査用紙より特記事項を拾い出し、個別に生徒から状態を聞く。上級生に関しては内科検診時に気になる生徒との面談をし、必要に応じて授業後にも面談を実施した。</p> <p>②体調不良で保健室を訪れる生徒には、心身両面の聞き取りをして生活面や心の悩みについてのアドバイスを行う。時にはスクールカウンセラーと密に連絡を取り合いカウンセリングに導いた。</p>	<p>①健康的な生活習慣の一時的な乱れは、養護教諭のアドバイスにより改善されていくことが多く見受けられた。</p> <p>②生徒自身が自分の健康管理に気をつけるようになった。</p> <p>③スクールカウンセラーとの面談を拒む生徒が以前と比べて少なくなった。</p>

	<p>④環境美化とともに、リサイクル等エコ活動への意識を高める。</p> <p>⑤美化委員会・保健委員会を新設し委員会活動を充実させる。</p> <p>⑥生徒一人ひとりが生き生きと学校生活をする事ができるために、職員に対して障害に対する理解や校内支援体制の手助けをする。</p>	<p>③専門知識の共有や、生徒に対してスクールカウンセラーへの相談を進めるなど、スクールカウンセラーとの連携を充実させた。</p> <p>④週2日、ゴミの分別回収を実施した。生徒や教員に対して校内を清潔に保つ意識の高揚を呼びかけた。</p>	<p>④⑤新設された美化委員会・保健委員会による美化・保健活動が充実したものとなった。今後もさらに推進していく。</p>
図 書	<p>①読書を通じて豊かな感性を育めるよう、図書の選定や広報活動など活発な図書館の運営に努める。</p> <p>②工芸高校の学習センターとして、教科学習を支え、多様な興味関心に対応できる情報メディアを充実させる。</p> <p>③蔵書データベースのIT化を進め、利便性を高める。</p>	<p>①利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書リエンターション</li> <li>・図書館だより</li> <li>・図書館通信(教室掲示)</li> <li>・書店見学会</li> <li>・図書委員会の活性化</li> </ul> <p>②情報メディアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による選書・書店見学会の実施</li> <li>・PCをインターネット閲覧ができる環境にする</li> </ul> <p>③IT化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ(バーコード)による蔵書点検の実施。</li> <li>・入力データの整備をし、検索機能をより高めていく</li> <li>・蔵書データの共有</li> </ul>	<p>①・図書リエンターション……1年生7クラス実施(4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館通信(教室掲示)……5回発行</li> <li>・図書館だより……11月に発行</li> <li>・書店見学会(図書購入)……2回実施</li> <li>・図書委員会の活性化……</li> </ul> <p>毎月定例で集まり、企画立案・実施企画コーナーの設置、図書室内の装飾、朝日新聞の「オーサービジット」企画に応募、イベント企画(お勧め本コーナー)など</p> <p>②・書店見学会(図書購入)……2回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からのリクエスト 通年受け付け</li> <li>・インターネット接続の実現</li> </ul> <p>③・PC(バーコード)による蔵書点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入力データの整備をし、検索機能をより高めた</li> <li>・月ごとの新着図書のリストは校内ネットにアップした。</li> </ul>
工 務	<p>①各種競技大会や資格取得等の啓発を行う。</p>	<p>①愛知県高等学校工業教育研究会総合競技大会、若年者ものづくり競技大会、技能五輪などへ生徒を積極的に参加させた。愛知県高等学校職業教育技術認定事業や全国工業</p>	<p>①愛知県高等学校工業教育研究会総合競技大会の木材加工で優勝、測量競技は準優勝し両競技とも東海大会へ出場(木材加工は準優勝)</p> <p>若年者ものづくり競技大会では、ウェブデザイナー職種で</p>

	<p>②学校見学会やチャレンジ教室等の計画・運営を行う。</p> <p>③外部専門講師や課題研究等の発展に努める。</p>	<p>高等学校校長協会のジュニアマイスター制度の推奨を行い、多くの生徒が資格・検定にチャレンジした。</p> <p>②全職員で中学校へ出向き、夏休み実施の「チャレンジ教室」や中学校の先生向けの「学校説明会」、10月実施の「工芸アーツ（学校見学会）」の案内を行い工芸高校を紹介した。</p> <p>③マイスクールプランを利用して外部専門講師を招聘し、生徒が最新の技術や知識などに触れる機会を多くつくる。また、3年生で取り組む課題研究などに活かすことができる技術・技能なども学習させた。さらに、大学・企業・地域との連携を図り課題研究や実習など授業の発展につなげた。</p>	<p>は、優勝と準優勝、オフィスソフトウェア・ソリューション職種では敢闘賞を獲得</p> <p>技能五輪全国大会には5名が出場し銅賞や敢闘賞を受賞</p> <p>全国高等学校情報処理選手権に初出場し団体5位、個人7位</p> <p>更に多くの種目で好成績を収められるように出場生徒の練習する環境などを整備する必要がある。</p> <p>②「チャレンジ教室」「工芸アーツ（学校見学会）」共に、多くの中学生が参加し大いに工芸高校を紹介できた。</p> <p>③地域貢献や地域連携として旭丘小学校に「災害かまどベンチ」を設置、学区の防災訓練。また、名古屋市立大学芸工学部との連携で映画撮影や建築物の見学会などを実施。今後も生徒が楽しみながら参加できる地域への貢献や連携を進めていきたい。</p>
<p><b>広報企画</b></p>	<p>①安定した受検者確保のために情報を収集し分析をする</p> <p>②校外広報活動の企画・立案を行い、関係部署との調整を図る</p>	<p>①情報収集・・・入試状況分析、希望調査分析</p> <p>②校外広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣中学校訪問、中学校訪問企画立案</li> <li>第1回「生徒募集に関してのお礼、広報行事などのお知らせ」</li> <li>第2回「訪問中学校の受検者の様子、受検生の募集について」</li> <li>第3回「学科紹介を中心とした訪問」</li> <li>・中学等においての進路学校説明会、上級学校訪問</li> <li>・学校案内（リーフレット）、学校パンフ(A3)などの作成</li> </ul> <p>校内広報としてKOGEI NEWSの発行（平成26年度76号から86号）、メディアターの管理</p>	<p>校内の一部署として、昨年度に引き続きシステムティックに行えるように構築する必要がある。そのために、各事業の反省や職員からの意見を参考に、今後の事業をより活かせるように企画などを考える。</p> <p>また、本校のおかれている立場を、中学生の希望状況・入試の志望状況・新入生の状況などから推測し、職員全体で認識できるように情報を共有化に努め、平成28年度入学生対応に役立たせる。</p>